

YASHICA
YE

ヤシカ35YEの使い方



ポートレート
ヤシカYE・絞F 16・ $\frac{1}{125}$ 秒・SS

夜の操車場
ヤシカYE・絞F 4・ $\frac{1}{4}$ 秒・SS





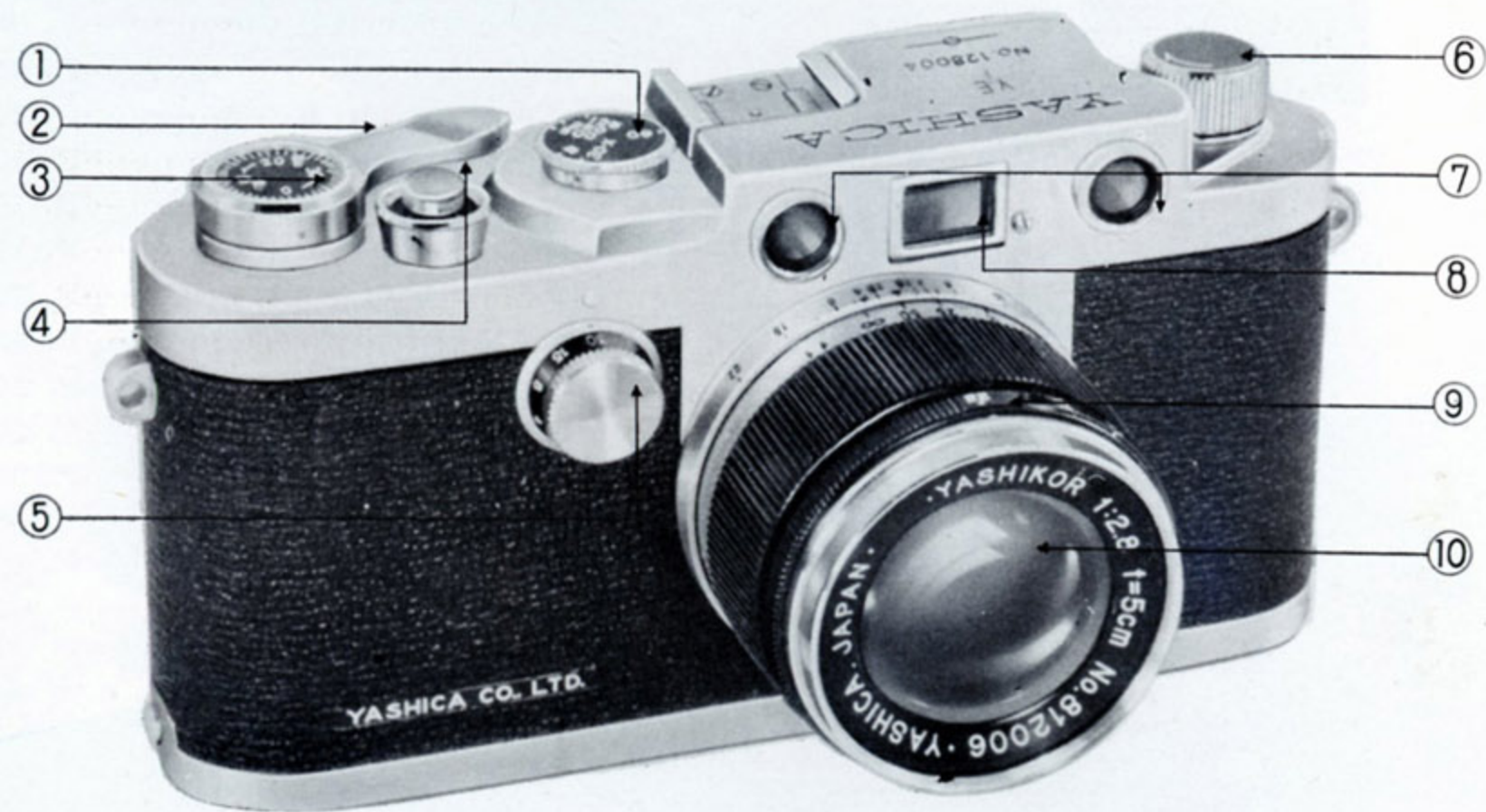
「ヤシカゴールデン劇場」スタジオスナップ
ヤシカYE・絞F2.8・ $\frac{1}{125}$ 秒・SSS

YE



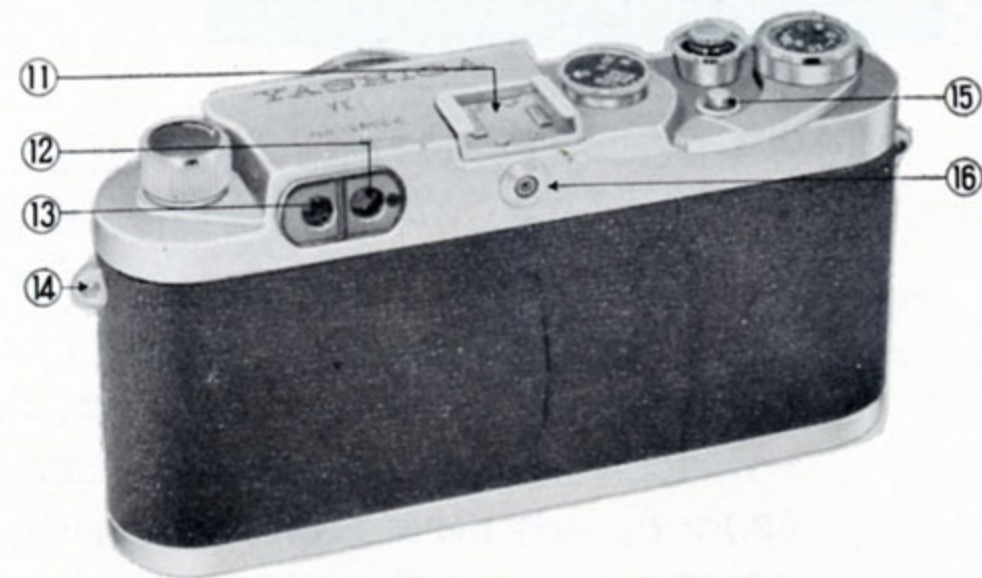
各部の名称.....	P. 4
ヤシカYEの特長.....	P. 6
撮影の順序.....	P. 8
フィルムに入れ方.....	P. 10
マガジンの使い方.....	P. 12
フィルムの巻上げ操作.....	P. 16
シャッターダイヤル.....	P. 18
フォーカルプレーンシャッター.....	P. 20
焦点調節と距離計.....	P. 22
巻戻しのしかた.....	P. 26
交換レンズの使い方.....	P. 30
フラッシュ撮影.....	P. 34
赤外線撮影.....	P. 38
二重(または多重)撮影.....	P. 40
被写界深度目盛の利用.....	P. 42
使用上の注意.....	P. 44
清掃と保存.....	P. 46

各部の名称



機構の名称をおぼえましょう

- ① 高速シャッターダイヤル
- ② フィルム巻取りレバー
- ③ フィルム番号表示盤
- ④ シャッターボタン
- ⑤ 低速シャッターダイヤル
- ⑥ フィルム巻戻し用ノブ
- ⑦ 距離計窓
- ⑧ ファインダー窓
- ⑨ 絞り調節リング
- ⑩ レンズ
- ⑪ アクセサリークリップ
- ⑫ ファインダー接眼窓



- ⑬ 距離計接眼窓
- ⑭ 吊り革用クリップ
- ⑮ 巻戻し用切替えボタン
- ⑯ シンクロターミナル
- ⑰ 着脱式底蓋
- ⑱ 焦点調節用ヘリコイド
- ⑲ 焦点調節用ヘリコイド
- ⑳ 底蓋開閉用レバー

ヤシカYEの特長

ヤシコールF2.8 50mmレンズを装着し、最高級のフォーカルプレーンシャッターを内蔵したヤシカYE型は、数々の特徴ある機構と操作しやすい性能を備えています。その特徴の二三を列記してみますと

(1)レンズは全面コーティングをほどこした新種ガラス使用による新設計のヤシコールF2.8 50mmレンズ使用 (2)シャッターは精密な機構を誇るフォーカルプレーンシャッターの高速・低速二軸ダイヤル方式を採用しています (3)フィルム巻上げは予備作動角を持った130度一操作(ラチェット式可能)の迅速巻上げができる機構を採用 (4)レンズマウントは世界共通のライカマウントを採用しているためレンズ交換が簡単に出来、広角から望遠まで自由に使用することができます。 (5)シンクロ接点は、特許自動切換え装置を内蔵しているためいかなるフラッシュバルブやストロボにも完全同調します (6)ファインダーは二眼式距離計連動(二重像合致式)のため焦点調節が容易です。その他、各種の優れた機構を備えたYEは最高級のカメラです。

ヤシコールレンズ



ヤシコールF2.8 50mm

ヤシカYEのヤシコールF2.8 50ミリレンズは特殊設計による、新種ガラス使用の優れたレンズです。このレンズは収差の補正がゆきとどいているため、フレアーは極めて少なく、当然焦点移動も少なく、開放絞りから最小絞りまで有効に活用できます。カラー撮影に最高の効果をあげるよう、全面コーティング処理がなされていますから、安心してカラー効果をねらうことができ、まさに新時代のレンズとすることができます。

また、この新種ガラス使用のヤシコールレンズはF2.8級の写真レンズの中では、最高の解像力を持ち周辺光量が豊富なため、大倍率の引伸しでも周辺がボケるようなことはありません。そのため、どなたにも安心して使っていただけ最高のレンズといえます。

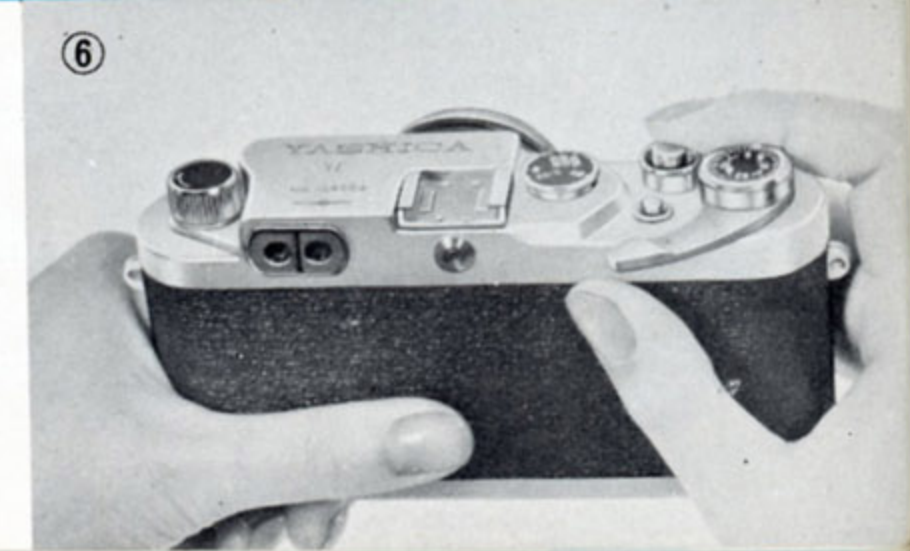
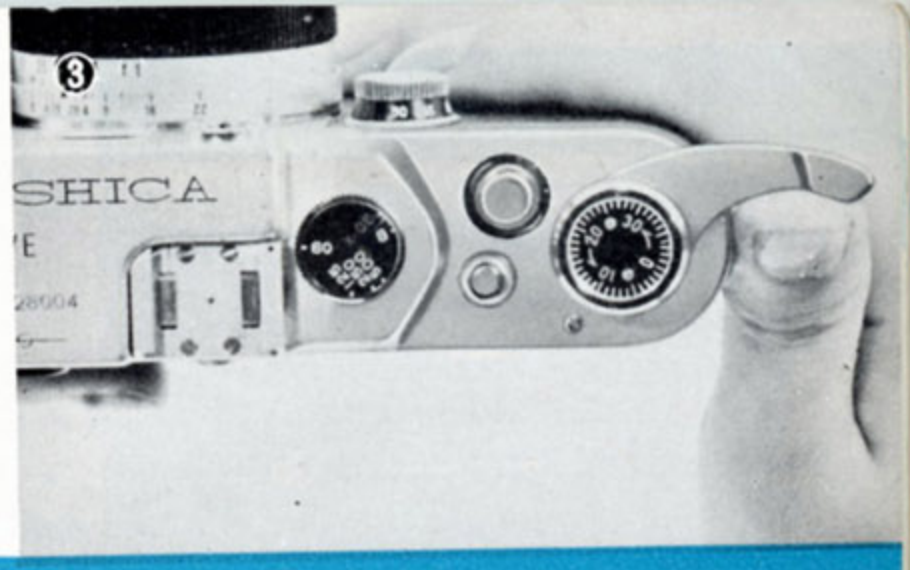
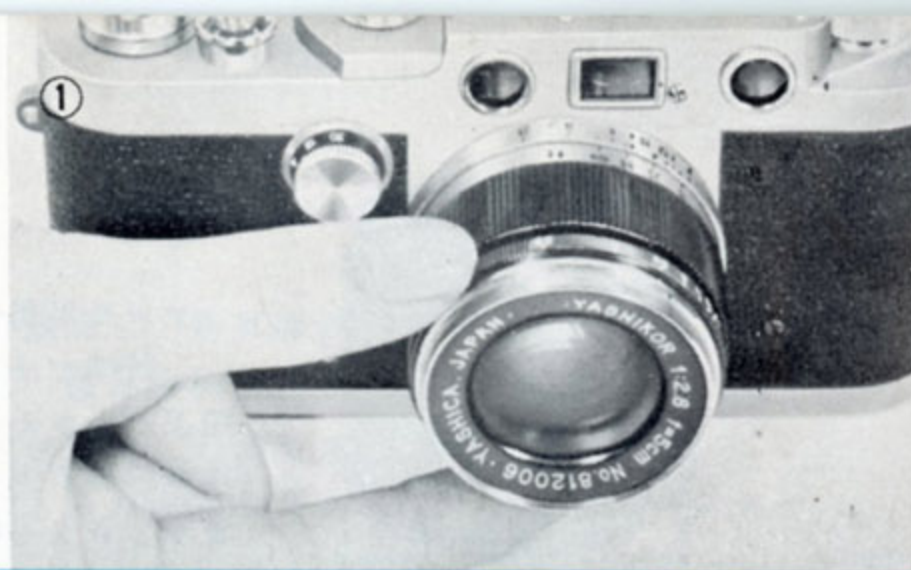
撮影の順序

まずレンズキャップを取りはずします
これは忘れ勝ちですから特に御注意を願
います。(写真①)

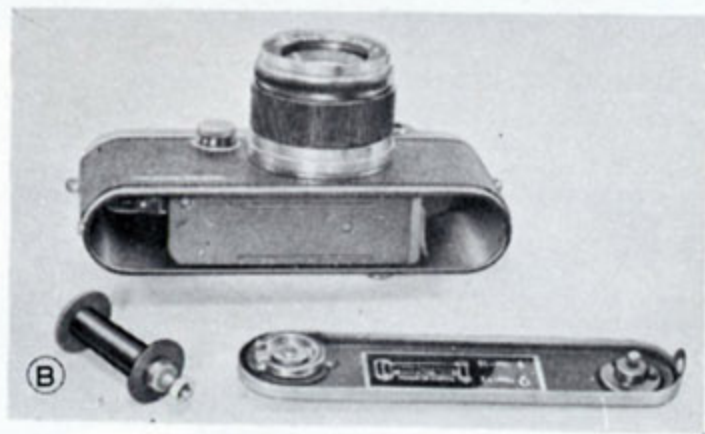
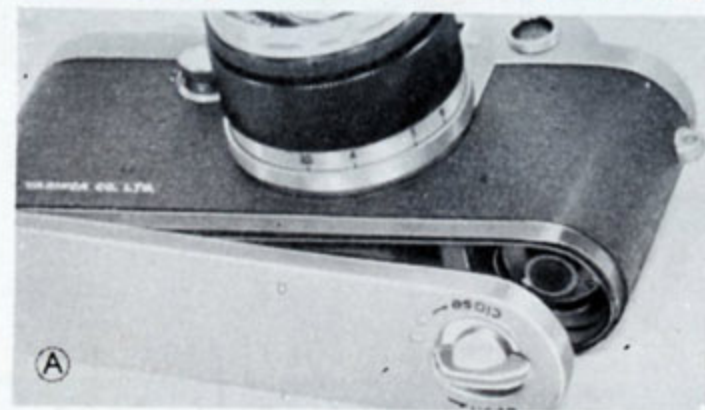
次にシャッター速度を考えに入れながら
露出表によってレンズの絞りを決めます
(写真②) 距離計で焦点を合せ二つ

の像が合致した所が焦点の合ったところ
です。それから巻上げレバーを巻いてシ
ャッターをかけます。(写真③)

次にシャッターダイヤルの目盛を決め、
(写真④) 低速シャッターを使用する
時には、このシャッターダイヤルを使用
します。(写真⑤) 最後にファインダ
ーより被写体をとらえて、静かにシャッ
ターボタンを押して下さい。(写真⑥)

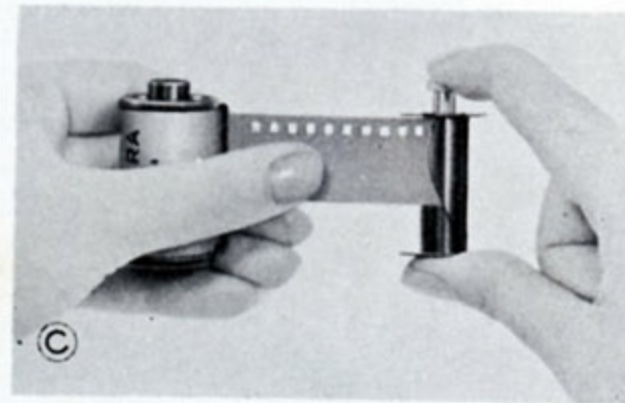


フィルムの入れ方



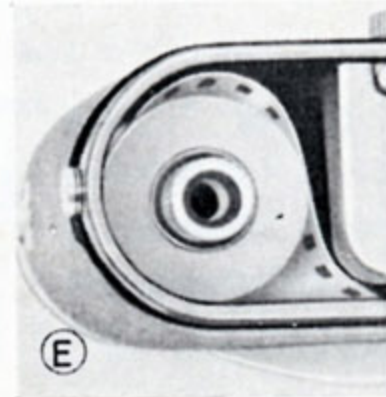
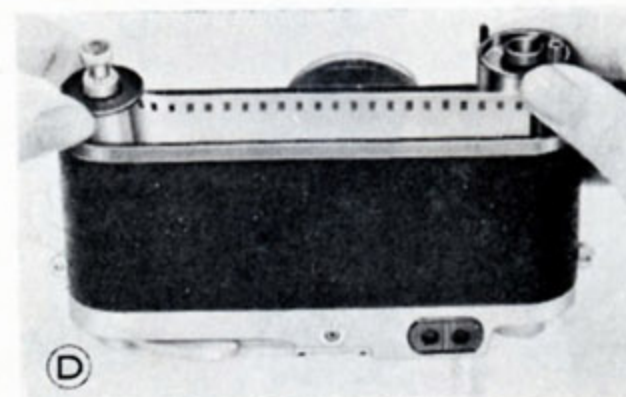
- (1) 巻取りレバーを止るまで巻いた後、シャッターボタンを押しておきます。
- (2) 次にカメラを逆さに持って、底蓋の開閉用レバーを起し半回転して底蓋を脱します(写真A・B)
- (3) 底蓋を脱して巻取りスプールを取り出します。
- (4) 巻取りスプールの中心軸のバネ板に、マガジン(パトローネ)に装填されたフィルムの先端部を膜面が外側になるよう固く挿込みます(写真C)
- (5) 写真Dのようにフィルムを左右が傾かないよう

☆フィルムをカメラに入れる時は、直射光下をさけて行って下さい

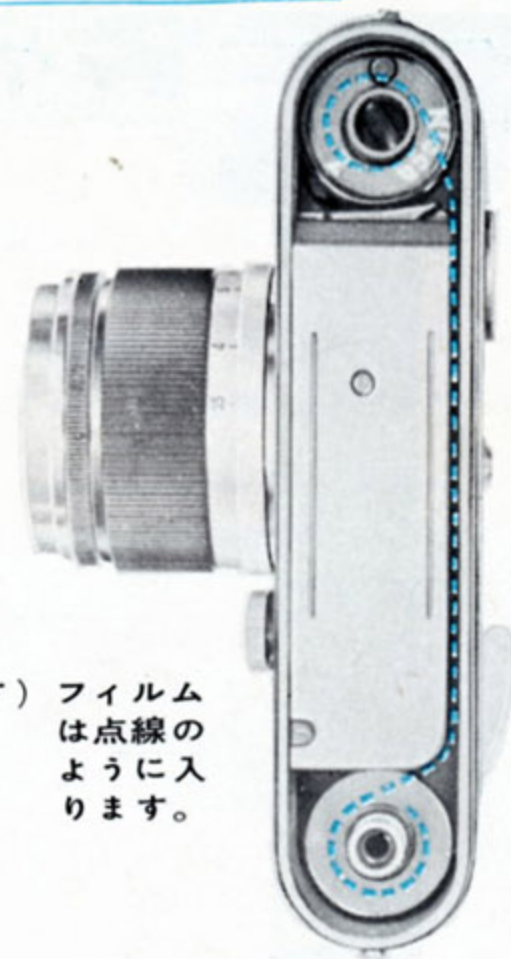


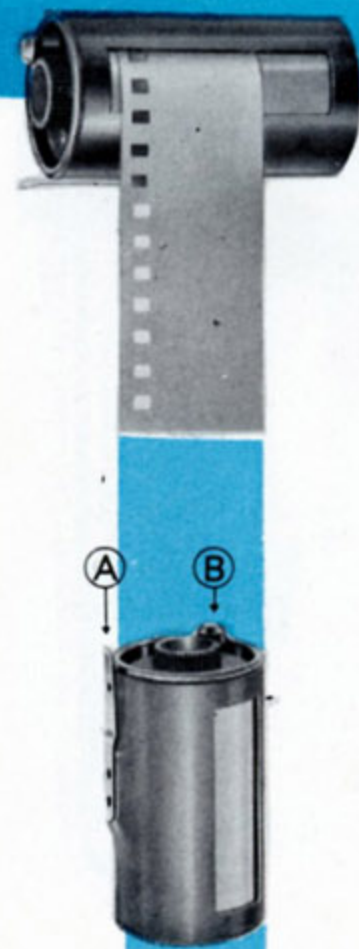
に注意して入れます。この時フィルムの膜面がレンズ側に来ているかどうかを注意して下さい。

- (6) 写真Fのようにフィルムを入れ終わったら、巻上げレバーを少し巻いてみて、スプロケットの歯がフィルムの孔に噛み合っているかどうかを確かめて下さい。(写真E)
- (7) 底蓋を元通りにしめ開閉レバーをClose にします。
- (8) フィルムを入れ終わったら巻上げレバーを三四回巻きますこの時、巻戻し用ムップが矢印と反対方向に廻ればフィルムが正しく送られていることになります。



(F) フィルムは点線のように入ります。



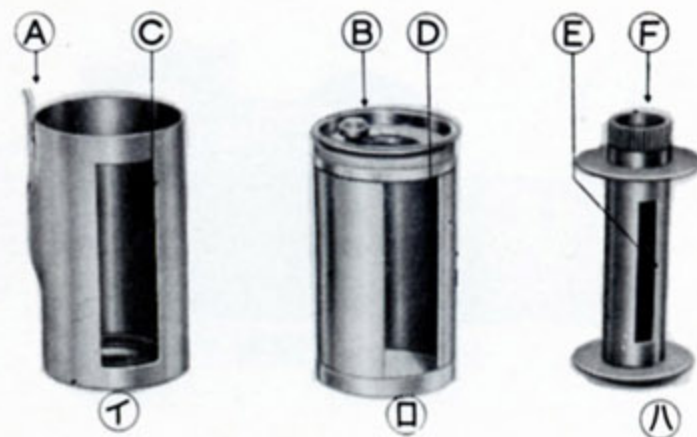


マガジンの使い方

YEには専用のマガジンがありますから、バトロネよりもフィルムをきずついたりすることの少ないマガジンを使用してください。フィルムマガジンは下の図のように外筒・内筒・巻軸の三部分からできています。なおマガジンにフィルムを入れるには、暗室で行うため、よく操作の方法を覚えて間違いないようにしてください。

マガジンの名称

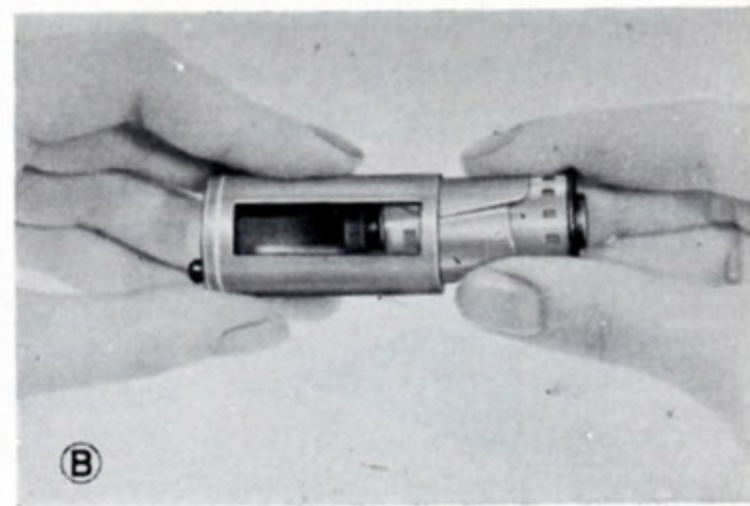
- ①外筒 ②内筒 ③巻軸
 ④開閉用バネ ⑤内筒の窓
 ⑥内筒の頭 ⑦巻軸の溝
 ⑧外筒の窓 ⑨巻軸頭部

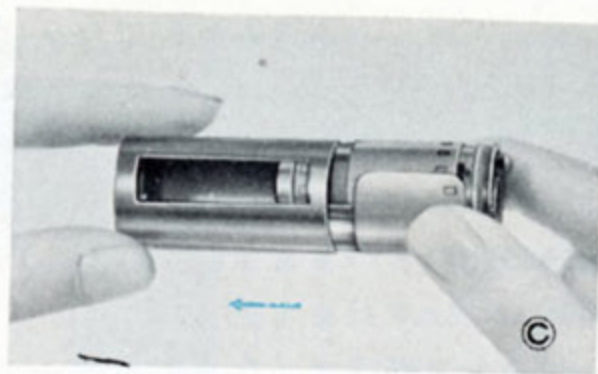


- (1)左手でマガジンを持ちバネ④を外側にひっぱりながら、右手で内筒の頭⑥を右に止るところまで半回転させます。そうすると外筒と内筒の窓が一致して簡単にはずれます。(写真A)
- (2)フィルム巻軸の頭⑦をつまんで引上げると内筒及び巻軸が外筒からはずれます。
- (3)分解したマガジンを順序よくなります。
- (4)フィルムを出し尖った方を巻軸の溝の中の広い方

に差込み、引張ってぬけない事確かめます。巻軸に入れる時は、右手に巻取り軸をもちフィルムの膜面が手前になるように差し込んで下さい。

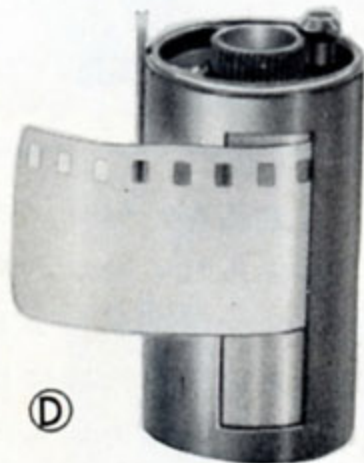
- (5)軸を膜面が内側になるように固く巻きつけます。
- (6)巻軸を頭の方から内筒に挿入します。この時フィルムの端が窓から容易に摘み出せるように、フィルムの端を外方に少し折り曲げておくとフィルムを出すのに便利です。





- (7)この内筒を窓に合せて外筒に入れ(写真C)、窓からフィルムの端を2cm位引出します。
- (8)内筒の頭(B)をつまんで内筒の止まるまで左に

★マガジンからフィルムを取り出すには暗室等を要しますから、多数の撮影には、相当数のマガジンを用意しておくとは便利です。



半回転させて窓を閉じます。(写真D)

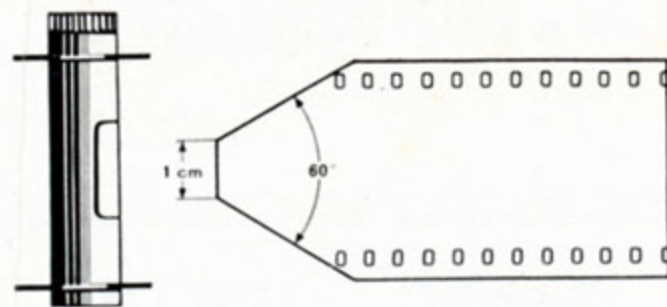
- (9)フィルムを装填したマガジンはつとめて強光の直射をさけ、出来ればマガジンケースに入れるか黒い紙に包んで下さい。
- (10)撮影済のフィルムをマガジンから取り出すには、逆の方法で行います。巻軸からはずす時は無理に引かずに、巻軸の近くでフィルムを鉗で切り差込んだ反対側から引抜いて下さい。

注意

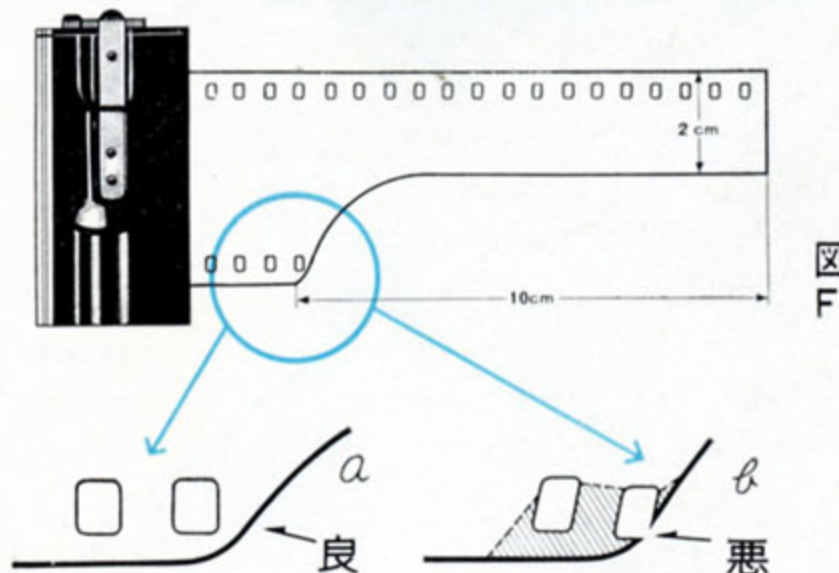
フィルムを巻付ける時、エマルジョン側(膜面)に手を触れないように注意して下さい。触れるとシミ等を作る原因となります。

フィルムの切断と巻付け方

生フィルムの取扱いは、完全な暗室内で行うことは云うまでもありません。長尺のフィルムを切断して使用する時には、必ず1.6米(5.3呎)以下に切断しE・F図のようにそれぞれ切ります。パトローネや暗室装填用として発売されている35ミリフィルムは、E・F図のように切断されていますから、すぐ使えます。E図：マガジンのスプールに巻つける場合のフィルムの切り方



図E



図F

F図：カメラ側のスプールにフィルムを巻つける場合のフィルムの切り方です。パーフォレーションの孔にかからないように切ってください。b図のようになると斜線のところがカメラ側にひつかかってクズとして残る恐れがあります。

フィルムの巻上げ操作



YEのフィルム巻取りは、親指一本でフィルムが巻上げられる、レバーによる一作動回転式(巻上角度130度)を採用しておりますから、迅速にかつ正確にフィルム一駒一駒が送られ、パーフォレーションが切れたり画面にスリ傷がついたりすることはありません。

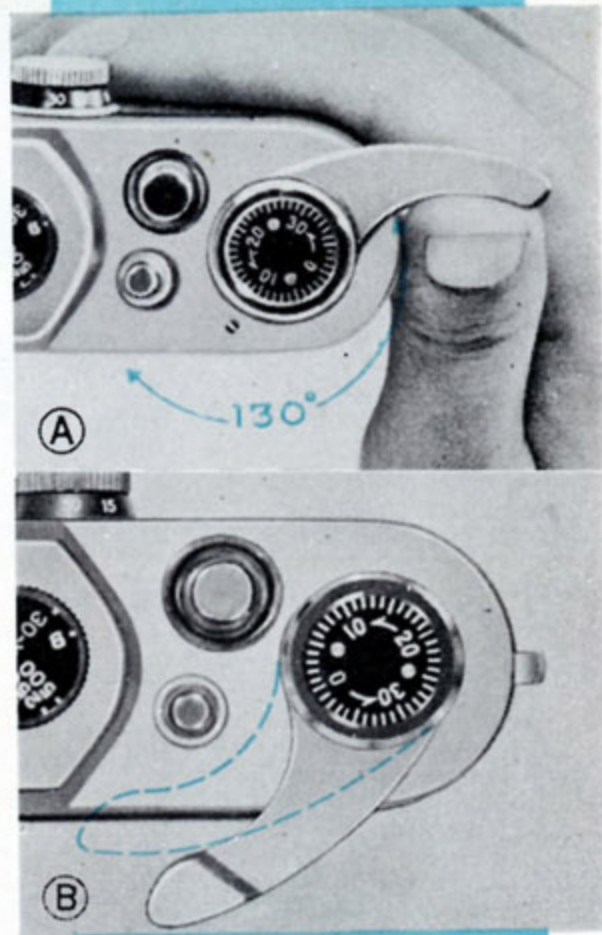
また、YEのフィルム巻上げ機構は自動的に一駒ずつ送られ同時にシャッターがセットされるオートマツト機構を備え

巻上げ角度……130度 1 操作

ているため、シャッターボタンを押さなければレバーを巻上げることができず、絶対に二重撮りをする心配はありません。(特に二重撮りをしたい時は別項のような操作により二重撮りも出来ます)

フィルム巻上げは一作動のほかにラチェット式、(数回にこきざみに巻上げる)でも迅速に巻上げられます。レバーは格納式になっていますから、撮影中は写真Bのように指のかかりやすい位置におかれており、撮影が終わったら軽く押すだけで写真Bの点線の位置に格納されます。

ラチェット巻上げ可能



シャッターダイヤル

高速ダイヤルの使い方

YEの高速シャッターダイヤル ($\frac{1}{500}$ 秒 ~ $\frac{1}{30}$ 秒) を使用する時は次のようにしてください。

- (1) まず、低速シャッターを“30”のところに置き高速ダイヤルを指で摘み、少し持上げてから希望の速度目盛を指標Aのところに合せます。
- (2) ダイヤルは落込式になっていますから、数字のあるところ以外では落込みません。もし落込みまぬままで使用すると故障の原因となります。
- (3) 高速ダイヤルにあるBのマークはバルブ露出をする時に用います。目盛をBにすればシャッターは、シャッターボタンを押している間だけ開き、ボタンを離すと閉じます。

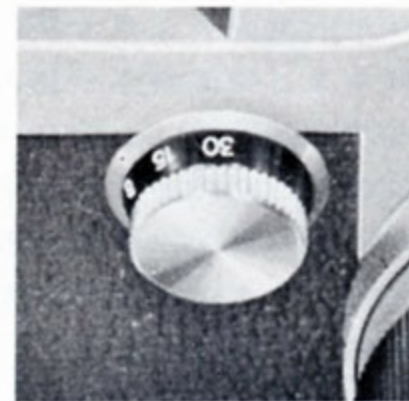
YEのシャッターは高性能のフォーカルプレキシッター2軸ダイヤル式を採用しています
高速ダイヤル (6段階)

$\frac{1}{30}$ · $\frac{1}{60}$ · $\frac{1}{125}$ · $\frac{1}{250}$ · $\frac{1}{500}$ · B

低速ダイヤル (4段階)

$\frac{1}{15}$ · $\frac{1}{8}$ · $\frac{1}{4}$ · $\frac{1}{2}$

低速ダイヤルの使い方

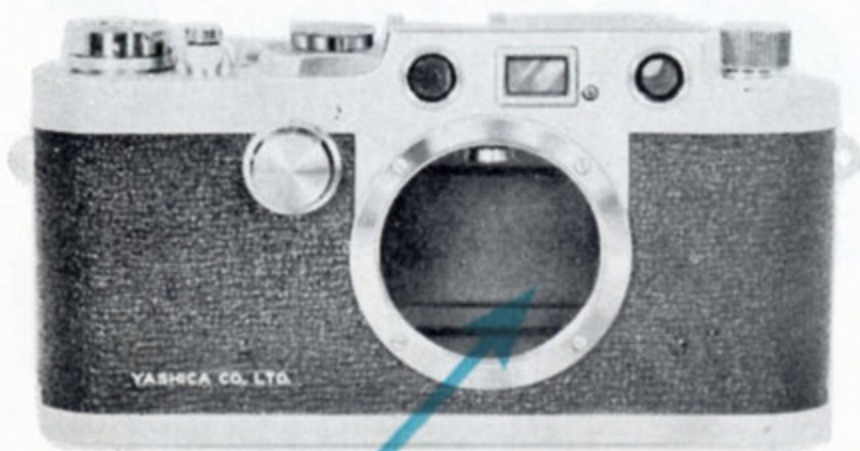


高速シャッター $\frac{1}{500}$ 秒により瞬間を捉えたところ

低速シャッターダイヤルは、上部からも目盛をみることができしかも扱いやすい位置につけられています。

- (1) 高速ダイヤルを“30”に合わせてから低速ダイヤルを操作して下さい。これを忘れると高速シャッターが切れてしまいます。
- (2) 低速シャッターダイヤルはクリック式のため、希望の速度目盛に指標を簡単に合することができます。

フォーカルプレーンシャッター



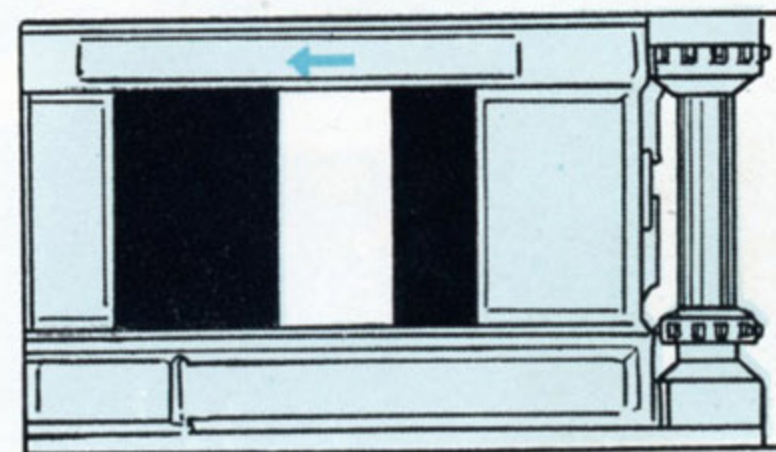
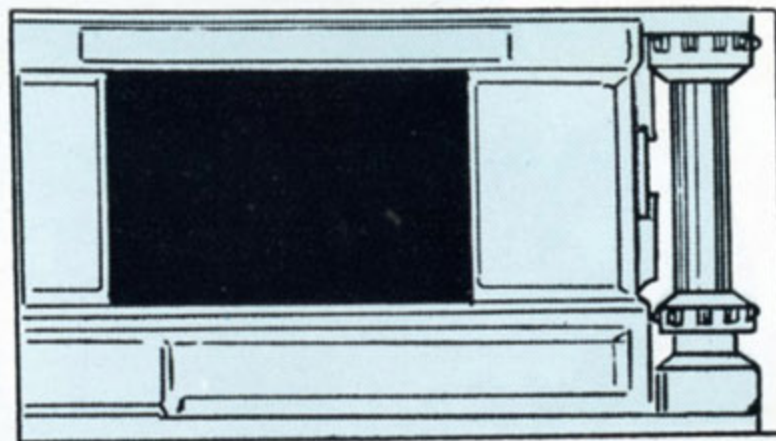
ここをフォーカルプレーンシャッターの膜が走ります

最高級のカメラに多く採用されているシャッターは、フォーカルプレーンシャッター(幕式シャッター)で、このシャッターの最大の特徴は、なんといってもレンズ交換ができるということです。

ヤシカ Y E 型は、精度の高いこのシャッター方式を採用しております。特許をもっているこのフォーカルプレーンシャッターは、レンズ取付けとは関係なく、フィルムの焦点面のすぐ前を2枚の特殊布黒幕が、一定のスリット(幕と幕との間隙)をたもって走行することにより、フィルム面に露光を与えるもので、ヤシカ Y E は、常にこれが正確な速度を保持するよう厳密な検査を経ています。

フォーカルプレーンシャッターの特徴

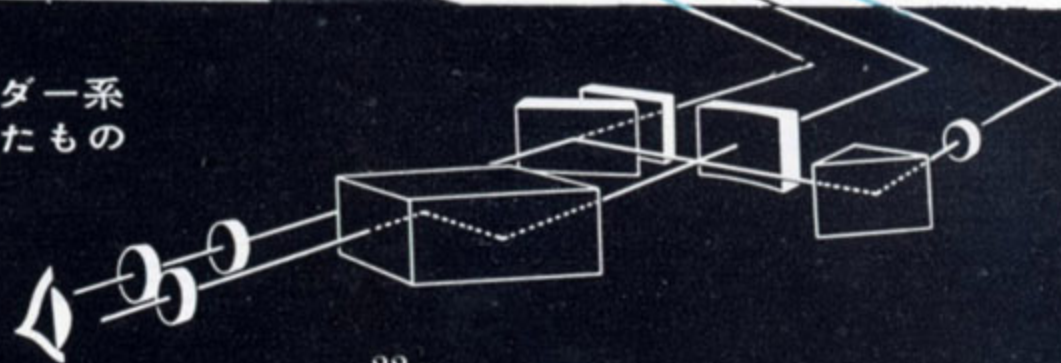
- (1) レンズ交換が完全に行なわれ、特にそのレンズの互換性は完璧です。従って広角レンズから望遠レンズまで十数種のレンズ群の交換は正確に容易に行われます。
- (2) 高速度シャッター、低速度シャッターが常に正しい速度で露光されます。
- (3) フラッシュ撮影については、どんな速度にも完全同調しますが、特に F P 級バルブでは、 $\frac{1}{50}$ 秒 ~ $\frac{1}{500}$ 秒のすべてのシャッター速度に同調します。また X 接点を使用すれば、ストロボで撮影することもできます。また $\frac{1}{50}$ 秒以下のオープンフラッシュではどの級の球も使用できます



焦点調節と距離計

YEのファインダー部分は逆ガリレオ式の精密なる光学系を採用しておりますから、誰にも非常に見易くまた、焦点調節は明るい二眼式連動距離計（二重像合致式）により行いますので簡単に焦点を合わせることが出来ます。

YEのファインダー系統の構造を表したもの

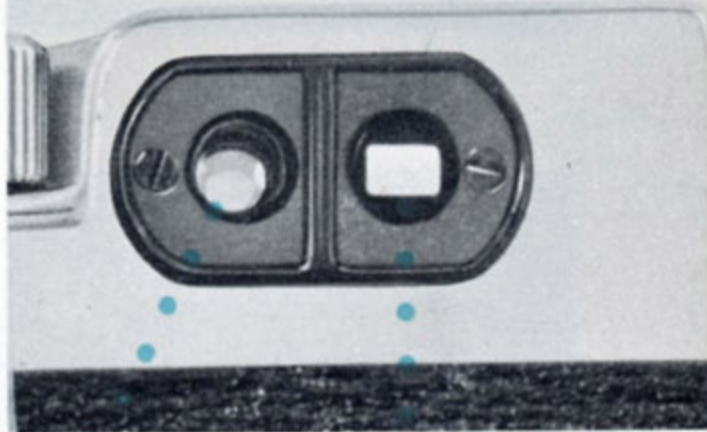


焦点調節は左の写真のように右手でカメラを持ち、左手でカメラの一方をささえながら、レンズ鏡胴部のヘリコイドを廻転させて行います。

距離計の接眼窓をのぞくと下の写真のように二重像が見えます。レンズの鏡胴を廻していくと二重像が近寄りたり離れたりますから、両者が完全に一致した位置が焦点の合ったところですが、右側のファインダー接眼窓は被写体の視野を決定するためのファインダー用窓です。

距離計望遠用接眼部

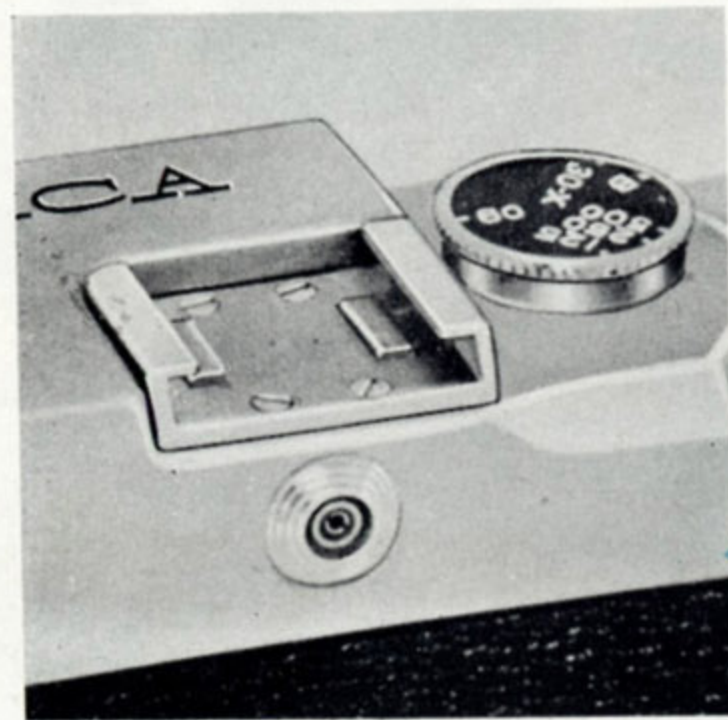
- ☆距離計連動・二重像合致焦点調節方式
- ☆ファインダー倍率 (0.5倍)
- ☆距離計倍率 (1.5倍)
- ☆有効基線長 (57mm)



ファインダー接眼部

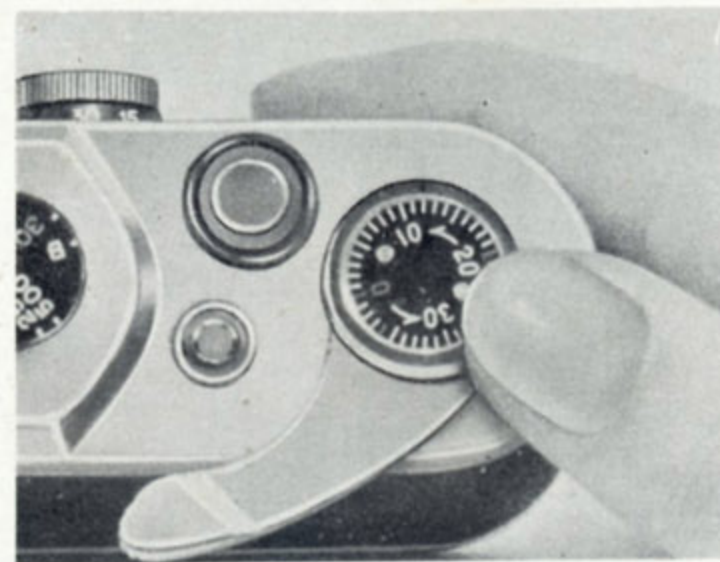


その他の機構



レリーズやセルフタイマーを使用する時は押釦の保護環内のネジにねち込みます。

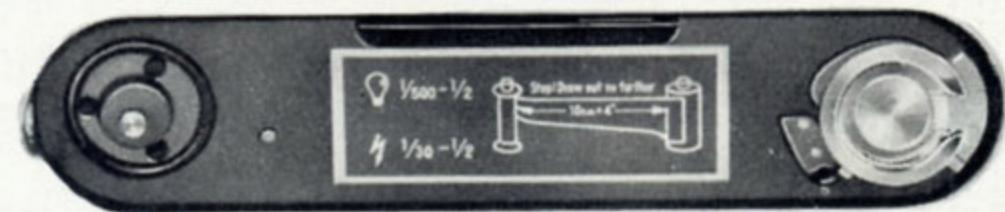
YE型には特許自動切換式フラッシュ同調装置が内蔵されていますから、どんなフラッシュバルブにも完全同調します。カメラ背部のソケットにコードを差し込むだけでフラッシュガンと連絡されます。カメラ上部中央にあるアクセサリシューにはガンやビューファインダーを装置することができます。



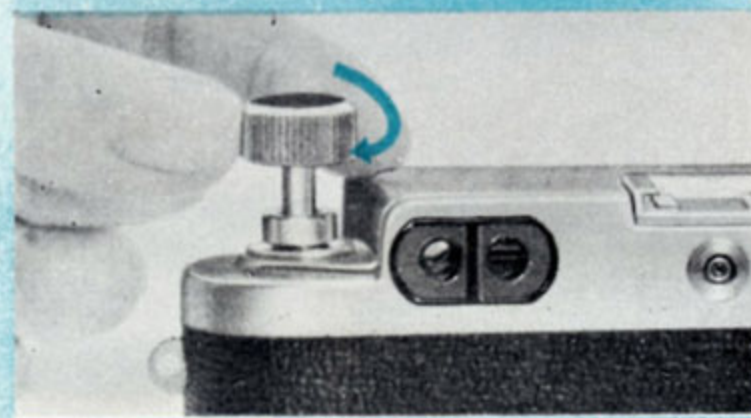
順算式フィルム駒数計

フィルム駒数計はカメラ上部レバーのところに表示されています。カメラにフィルムを入れ終ったら、かならず駒数計の突起に指をかけて時計と反対方向に廻して目盛を指標に合せて下さい。撮影前に合せるのを忘れると撮影した枚数がわからなくなります。

カメラ底蓋にはフラッシュガン及びストロボ使用の際のシャッタースピードと、フィルム装填の略図が記入されています。



巻戻しのしかた



フィルム全部の撮影が終わったとき、フィルムは巻取スプールに巻きあげられています。これをカメラから取出すには、一たんフィルムをマガジンの中へ巻戻さねばなりません。

(1) 巻上げレバーは、撮影を全部終えると抵抗を感じて動かなくなります。この場合無理に巻上げるとフィルムがマガジンから全部脱けますから注意して下さい。

(2) 巻戻しボタンを押しながら(上写真)、巻戻しつまみを引上げて(下写真)矢印方向に巻くと、撮影済みのフィルムがマガジンの中に巻戻されます。最後にちょっと抵抗を感じますが、かまわずに巻くと巻取りスプールのバネからフィルムの端がはずれて、全部マガジンに収まります。

(3) こうしてマガジン(またはパトローネ)に巻戻してからカメラ底蓋をあけます。

ヤシカYEの機構を生かした

撮影の実際

YEはレンズ交換ができる上にあらゆる機構をそなえているので

どんな撮影のテクニックも自由に存分にたのしむことができます

あらゆる撮影が楽しめるカメラ

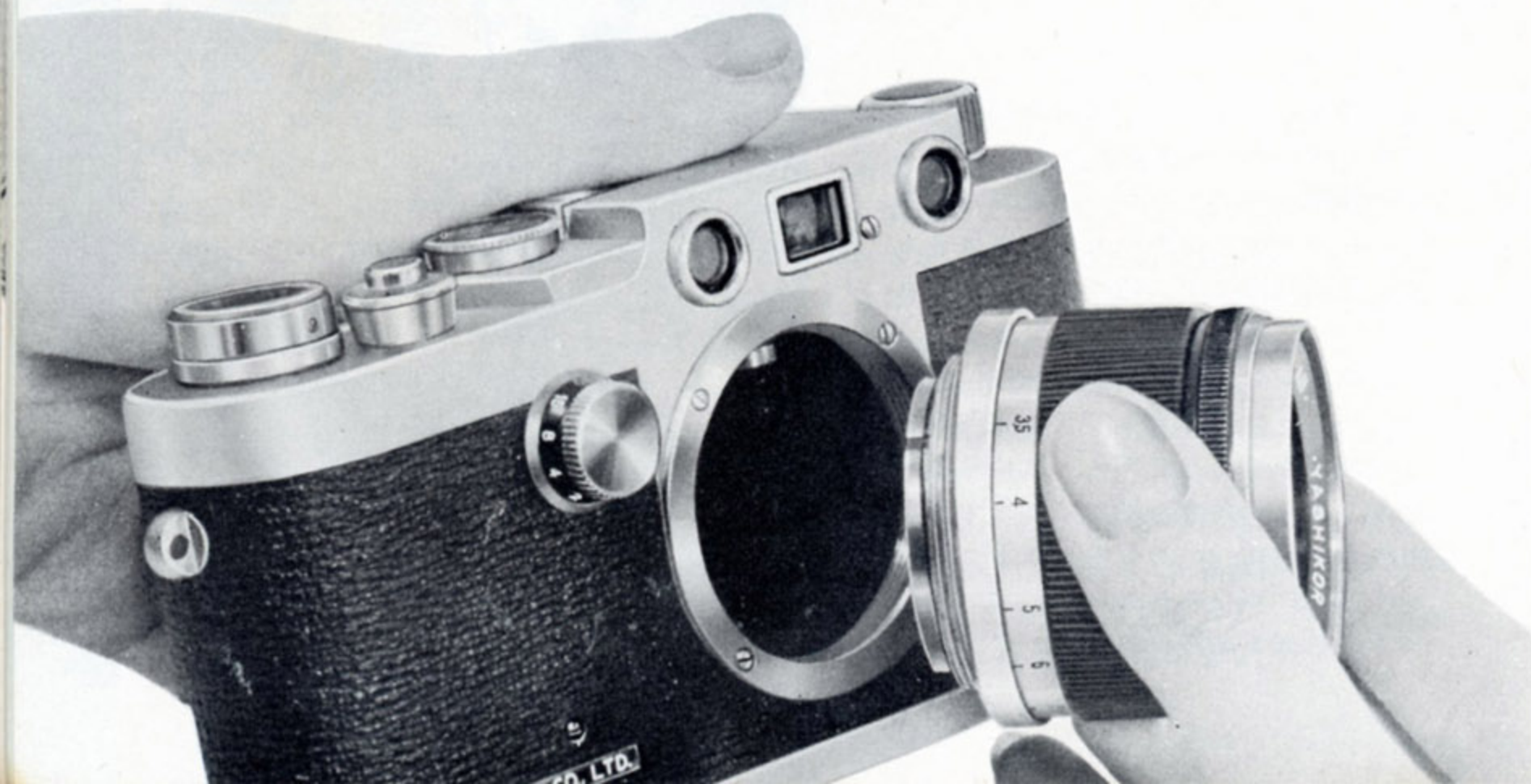
カメラの対象となる被写体は無限とっていいほどあり、ことにアマチュアの立場では、全く制限がないとってよいでしょう。したがって、あなたが写欲をそそられたものにカメラを向けてシャッターを切ればよいのですが、その場合、被写体をどう扱えば、その美しさや、被写体からうけた感じなどを、効果的に画面に表現できるか、ということに問題があるのです。そうした撮影上のテクニックを、思う存分駆使するには、何にもましてカメラの機構と性能がすぐれていなければなりません。ヤシカYEの強みはそこにあります。まずYEはレンズ交換式であり、望遠から広角までライカマウントのレンズなら何でも簡単に取付けることができ、したがって望遠効果を生かした画面やワイド画面など、画角の違った写真を自由に撮すことができます。フラッシュ撮影は接点自動切換え式になっており、ストロボとFP球を使って $\frac{1}{600}$ 秒から $\frac{1}{2}$ 秒までのあらゆるシャッタースピードに同調します。そのほか赤外写真撮影の考慮がなされ、二重露出防止装置によって二重撮しの失敗が防がれるとともに、多重露出もできるようになっていますから、幻想的な作品や作為的な構成写真なども思いのままです。これらの諸機構を完全に生かして、どしどし意欲的な作品を作っていただきたいと思います。

いい写真を撮るには、常に下記の三つの基本を頭において撮影しましょう。

- ①**光の問題**……モノクローム写真は白黒のトーンです。白黒のトーンを決めるのは光の明暗です。色の調子に迷わされないで、光の明暗に注意しましょう
- ②**カメラポジションとアングル**……被写体をねらう位置と角度でまるきり違った写真になることを考え、常に最良の位置と最良の角度を選ぶことです。
- ③**画面の単純化**……あれもこれもと欲張って画面に取り入れしないで、狙いをしぼり、画面を単純化しましょう。



交換レンズの使い方

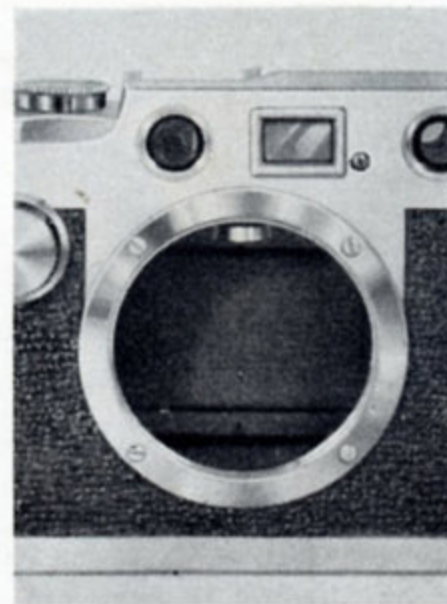


やさしいレンズ交換

ヤシカYEのレンズマウントは、世界中の35ミリカメラの中で一番多く使われているライカマウントを採用しており、ライカ用ネジ式レンズ交換は如何なるレンズでも簡単に取りはずし、又装着する事が出来ます。これをヤシカYEが採用している利点は…

- (1) レンズ交換が迅速である上、簡単であること。
- (2) このレンズマウントの交換レンズが世界で一番種類も多く他の多くの交換レンズをご利用になれる事です。
- (3) 他の交換レンズを使用しても勿論距離計と連動致します。
- (4) レンズの取り着け方に無理がなく他のどのレンズを使用されてもレンズの精度を優秀に保ち焦点にくるいが無いことです。

このライカマウントのレンズ交換方法は、ネジ込み式のため簡単に交換ができます。(左図参照) まず、左手でカメラを持ち、右手でレンズ焦点調節リングを軽く持ち、左方向に2回転半廻すことにより簡単にレンズをはずせます。他の交換レンズを装着する時は同じ方法で右に廻しネジ込みをしっかりと締めればよいのです。



● レンズマウント ●
ヤシカYEカメラのレンズマウントは世界に誇るヤシカ最高の技術と材質を持つライカマウントで他のライカ用レンズは全てご使用できます。

ロングからアップまで

35mm



50mm



YEレンズは交換がたやすくできるので、同じ被写体でも色々と変わった画面を得ることができます。また被写体のあるものを拡張したり、遠くに離れているものを写したい時などには交換レンズの偉力が最大限に発揮されてきます。

レンズ交換の楽しさ

85mm



ここにある5枚の写真は、広角から望遠までの各種レンズを使って撮影したものです。交換レンズの特性を生かして撮れば面白い写真ができます。

135

m/m

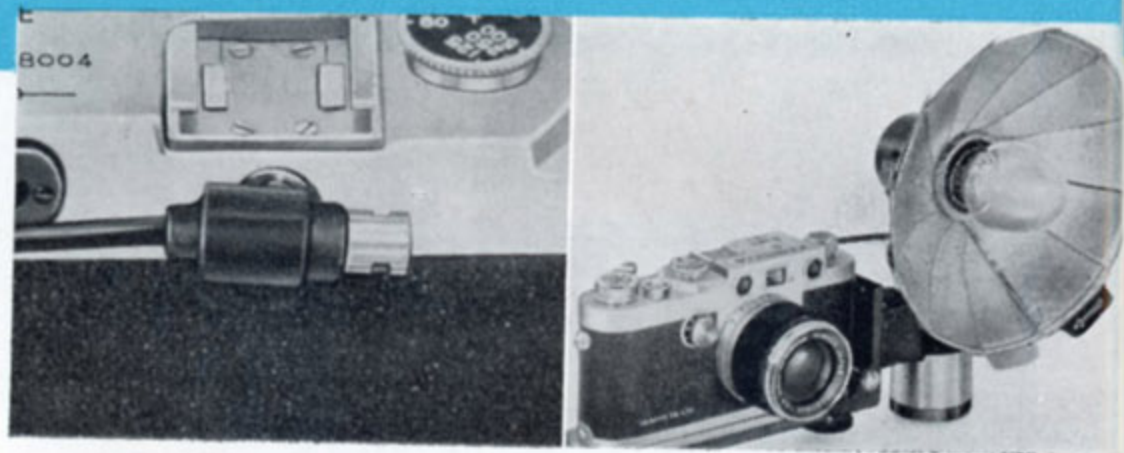


105

m/m



フラッシュ撮影



ヤシカYEにはフラッシュ同調装置が内蔵されており、これを使用すれば、シャッターを切ると同時にフラッシュバルブ、またはストロボフラッシュが発光する、いわゆる同調撮影（シンクロ撮影）ができますから、

夜間撮影や昼間の補助光を必要とする撮影も簡単です。

- (1)フラッシュ撮影をするときは、カメラにフラッシュガンまたはストロボを取りつけ、そのコードをカメラ背面のソケットに差しこみます。
- (2)ヤシカYEのシンクロ装置は自動切換え式になっていますから、一つの接点で $\frac{1}{500}$ 秒から $\frac{1}{2}$ 秒までのすべてのシャッター速度と同調します。 $\frac{1}{50}$ 秒以上のシャッターを切るときは、FP球(フォーカルプレーン用バルブ)を使用しますが、 $\frac{1}{50}$ 秒以下のシャッターを切るときには、ストロボでもいいし、どの級の閃光電球を使っても結構です。



バルブと ストロボ



フラッシュ撮影には大別してバルブを使用するものとストロボとがあります。この両者にはそれぞれ利点と欠点がありますから、用途にしたがって選ぶ必要があります。カラー撮影やフラッシュ撮影をしばしばおこなう人はストロボを、集合人物・記念撮影などにときどき利用される人はフラッシュバルブをお選びになるといいでしょう。

フォーカルプレーンシャッターは膜速が一定しており、高速シャッターは、その前膜と後膜の間隔がせばめられることによって得られるのですから、閃光電球はその膜が作動している時間（ $\frac{1}{50}$ 秒）中、平均した光の強さで燃焼しつづけるものでなければ良い露光が得られません。この条件を満足するように作られた球がFP球で、したがって、 $\frac{1}{50}$ 秒以上のシャッターを切るときには必ずFP球を使用します。 $\frac{1}{50}$ 秒以下ですと、シャッターの膜は一度全開になりますから、燃焼のしかたは問題になりません。そのためにストロボは勿論、F球、M球など、いずれの級の球でも使用できるわけです。

カラー写真撮影に 有利なヤシカYE

白黒写真が光の詩なら、カラー写真は色の階調が奏でる詩であり、ここ数年来の感光材料の著しい発達によって、誰でも気軽にカラー撮影を楽しめるようになったことは、本当に嬉しいかぎりです。カラー撮影で最も大事なことは勿論カラーの正確な描写ですが、その点ヤシコールレンズをもったヤシカYEは断然有利です。

カラーフィルムには、印画にして観賞するカラーネガと、スライドで映写するカラーポジとあり、ともに昼間ならデイライトタイプ、夜間や人工光での撮影ならタングステンタイプのものを使用しなければ正確な色彩が得られませんから、注意してカラー撮影を楽しみましょう

COLOR HOLDER



COLOR HOLDER

カラー写真はスライドにしておけばいつでもスクリーンに拡大して見られます。ヤシカYEは35ミリフィルムを使用するため、カラーライドを作製するにも経済的で、しかも小型ですから、しまっておく際の整理が楽です。

赤外線撮影



ヤシカYEのレンズには距離指標の△印の右側に、赤い▲印で表わされた赤外線撮影用の第二の指標がついています。この指標は赤外線撮影、すなわち赤外線フィルムと赤外線フィルターを併用したときに使用するものです。まず普通の撮影の要領により被写体までの距離を測定して実際の距離を知り、その距離を赤い▲印の指標に合わせれば（すなわち普通より鏡胴を少しのばす）、赤外線撮影においても正しいピントが得られます。なぜこの操作が必要かといえは、赤外線と普通の可視光線とでは屈折率が違い、この両者の焦点面に幾分のズレがあるため、これを矯正するのです。

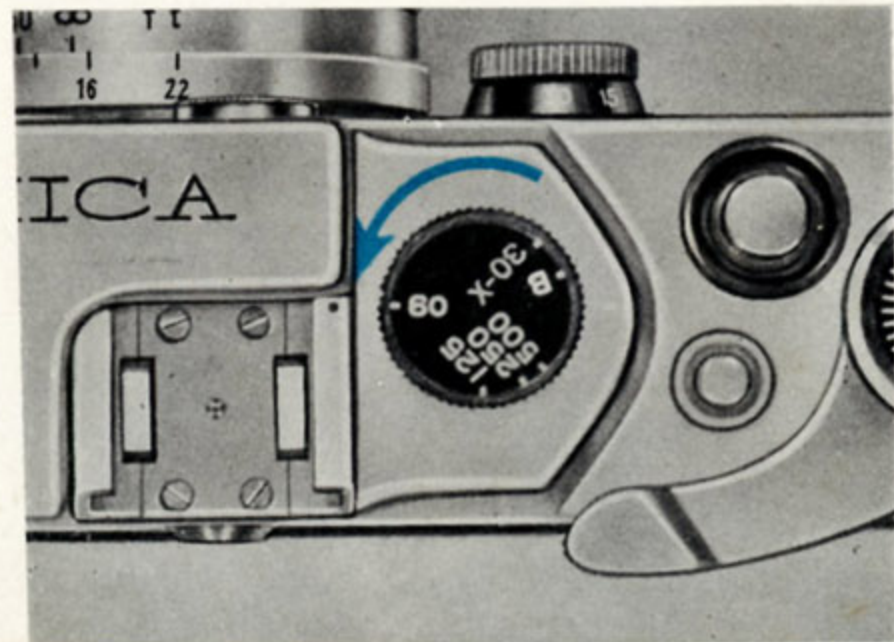


二重(または多重)撮影

(1) 通常の撮影の要領によって一枚撮り終りましたら右写真のように高速シャッターダイヤルを時計と反対方向に止まるまで廻します。

これで二重撮影の準備ができたわけです。この場合リリース釦や巻上レバーに触れる必要は全くありません。

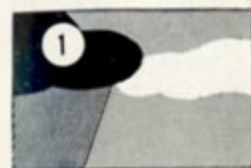
(2) この状態でまた被写体をねらってシャッターを切れば二重撮りが出来ます。このときシャッター速度を変えても差支えありません。この操作を繰り返して行えば多重撮しも可能なわけです。



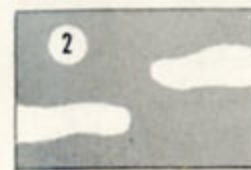
万能露出表

(富士フィルム提供)

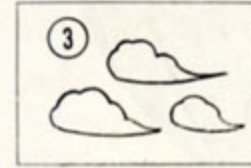
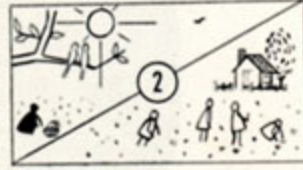
第一表



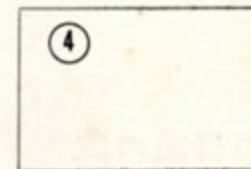
- 陰の暗い風景
- 明るい日陰人物
- 樹下
- 狭い街頭



- 街頭スナップ
- 直射光下の人物
- 暗い前景ある風景
- 集合人物



- 海浜の人物
- 開けた風景
- 農村漁村スナップ



- 海山の明るい風景
- 雪山
- 雪景
- 広い海景



第二表

(A×B)	f2.8	f 4	f5.6	f 8	f 11	f 16	f 22
1	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8	1/4	1/2
2	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8	1/4
3	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8
4		1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15
6			1/500	1/250	1/125	1/60	1/30
8			1/500	1/500	1/250	1/125	1/60
9				1/500	1/250	1/250	1/125
12					1/500	1/250	1/125
16					1/500	1/250	1/250

使用法：

第一表を使用して撮影する時の天候の番号と被写体の番号を掛け算して下さい。第二表で掛け算の横に現われた数字が、ネオパンS(ASA 50)の標準露光です。ネオパンSS(ASA 100)の時は一段絞って御使用下さい。ネオパンSSS(ASA 200)の時は二段絞って御使用下さい。フジカラーフィルムは、二段絞りを開くか露光時間を4倍して下さい。この表を使用する時間は日の出3時間後、日没3時間前までです。真冬はいずれも一段絞りを開き、真夏は一段絞って御使用下さい。

被写界深度目盛の利用

写真を撮る場合、光学的にみれば焦点は一点にしか結びませんが、実用上ピントが合っていると考えられる範囲は、焦点を合わせた部分の前後にかなりあるわけで、この実用上ピントが合っていると考えられる範囲(奥行き)を被写界深度と言います。被写界深度は絞りを絞ることによって深くなり、また、写すものの距離が遠くなるほど深くなってゆくものです。これを表に示したのが右頁の被写界深度表です。ヤシカYEには右上写真のように、距離目盛と並んで被写界深度目盛が刻まれており、この目盛の読み方は、今18フィートの距離に被写体があるとして、絞りが8なら、△印の両側の8の数値と対応する距離、すなわち12フィートから30フィートまでピントが合うということが示されるわけで、この目盛の利用によって、早撮り、盗み撮りが思う存分楽しめます。



被写界深度表 (F 2.8 50mm)

(錯乱円0.033mm φ)

距離(ft) / 絞り(F)	3.5	4	5	6	8	10	15	25	50	∞
2.8	3.3~3.7	3.8~4.2	4.8~5.3	5.7~6.4	7.3~8.8	9.0~11.3	12.8~18.1	19.5~34.2	31.9~116	87.9~∞
4	3.3~3.7	3.8~4.3	4.7~5.4	5.5~6.7	7.1~9.2	8.6~11.9	12.1~19.8	18.1~40.4	27.6~263	61.5~∞
5.6	3.3~3.8	3.7~4.4	4.5~5.6	5.3~6.9	6.8~9.8	8.2~12.9	11.3~22.7	16.2~53.7	23.4~∞	43.9~∞
8	3.2~3.9	3.6~4.6	4.3~5.9	5.0~7.4	6.4~10.8	7.6~14.7	10.1~29.0	14.1~105	19.1~∞	30.8~∞
11	3.1~4.1	3.4~4.8	4.1~6.4	4.8~8.1	5.9~12.3	6.9~17.8	9.0~44.5	12.2~∞	15.5~∞	22.3~∞
16	2.9~4.5	3.2~5.3	3.8~7.3	4.3~9.7	5.3~16.3	6.1~22.8	7.7~42.5	10.0~∞	11.8~∞	15.4~∞
22	2.7~5.0	3.0~5.6	3.6~9.2	4.0~12.2	4.6~∞	5.6~∞	6.2~∞	8.0~∞	9.5~∞	11.7~∞

使用上の注意

撮影にさいしては、カメラに振動を与えぬように、しっかりとカメラを支えて、なるべくゆっくりボタンを押します。そのさい指先で押すより、指の腹全体を保護環の上へのせ、しずかに押すようにしましょう。また、 $\frac{1}{30}$ 秒より長い露出をするときには、三脚を使うか、器物を利用するかして、カメラの安定をはかりましょう。

シャッターダイヤルを動かす操作は、シャッター巻上げ前に行っても構いませんが、なるべく巻上げてから行うことをおすすめします。なお、シャッターを巻上げたままで長い期間ほっておくと、シャッター Springs が弱くなる原因になりますから、この点も十分に気をつけましょう。

レンズ面やファインダーは、絶対に自分で解体しないで下さい。もし調子が変わったときには、直ちに弊社サービスステーションに御相談下さい。

撮影時以外は必ずレンズにキャップをはめることです。なぜなら、フォーカルプレーンシャッターのゴム膜は熱線(赤外線の一部)を多少透過し、カブリの原因となるからです。また、あやまって太陽の方向にカメラを向けていると、数秒でシャッター膜を焼き、孔をあけますから、逆光線撮影のときは十分気をつけて下さい。止むなくキャップなしでカメラを露出して持ち歩くときには、絞りを最小絞りにしておく安全です。

カメラを持って海辺にでかけたときには、後でよく清掃しましょう。潮風は錆びの原因になりますし、砂ほこりは、カメラ内部の精密な機構を狂わすもとです。

カメラのボデー番号とレンズ番号は必ず記録しておくことです。これは紛失されたときに役立つからです。また、保証票も大事にしまっておいて下さい。

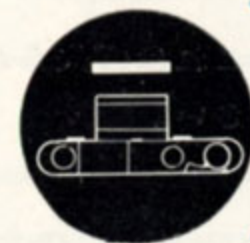
清掃と保存



1 レンズ類の清掃は十分な注意を要します。指紋や埃りがついた時は柔らかいセーム皮又は洗い古した清潔なガーゼ等に少量の純アルコールをつけて軽く拭き取って下さい。



2 カメラの細かい部分の塵埃はやわらかい刷毛で払い落とします。また手入れのつもりでレンズを分解したり、シャッターの内部に手を触れたりする事は絶対にやめましょう。



3 カメラを使用しない時は、必ずレンズキャップをはめて、埃りや湿気から保護して下さい。湿気はレンズにもカメラにも禁物ですからなるべく乾燥した場所へ保管して下さい。

アクセサリ

ヤシカYEのすぐれた機構と性能をより一層生かすのがアクセサリです。アクセサリの活用によって、あなたの写真術は一だんと上達することでしょう。レンズフードやフィルターは勿論、どんなアクセサリでも、必ずヤシカYEにあったものをお選びになることが大切で、それらについては遠慮なく弊社サービス課にお問合せ下さい。

ヤシカYEのレンズマウントは、ライカマウントですから、世界中のライカマウントレンズはすべて交換レンズとして使用できます。広角レンズや望遠レンズを使用することによって、さらに新しい写真術の境地を開くことができます。

ヤシカYE用のフードやフィルターをお求めのさいは、カブセの42mmまたはネジ込みの40.5mmとご指定下さい。なお近日中に、YEの専用アクセサリを各種発売致します。



ヤシカ製品のアフターサービスについて

ヤシカの誇るアフターサービスとは、ヤシカ製品をお買い求めくださった方々にいつまでも安心して御利用願えるメーカー側のサービスのことです。当社の製品については皆様の質問等何事によらず御遠慮なくサービス・ステーションにお申し出になれば係員がいつでも親切にお答え御指導致します。なお、ニッカ製品ご愛用者のサービスも当社で行っております。

当社のカメラをお買い求めくださいますと、愛用者カードが添付されておりますから、所定の事項を記入の上ポストにお入れになれば御芳名が登録されます。登録された方々には、当社の誇る最高のアフターサービスをいたす事になりますので、御愛用者の方は必ず御登録をいただきますようお願い致します。



弊社の誇る本社のサービス課及び動く相談室



☆ヤシカ製品についてのお問合せは下記へお願い申し上げます。



本社サービス部
大阪サービスステーション
九州サービスステーション

株式会社 ヤシカ

東京・日本橋室町1～8 本社内

大阪・南区鰻谷西之町3

福岡・天神町55 福岡証券ビル内

▶ 万一の故障について ◀

ヤシカの製品は「一台の不良品も買う身になれば100パーセントの不良品なり。不良絶滅」の社訓の下に、厳重な検査を経て出荷されますから故障の心配はありません。しかし輸送中など不測の事態で故障が起ったり、万一使用中に故障があった時は、下記へお送り下されれば責任をもって修理いたします。

東京都中央区日本橋室町1～8 株式会社 ヤシカ



YASHICA CO., LTD.